

近畿農政局長賞

あきづがわしんこうかい

秋津川振興会（和歌山県田辺市）



備長炭の窯出し体験



地元産物を中心とした商品が並ぶ販売店

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

江戸時代から紀州備長炭の里として知られている秋津川地区には、長い歴史のなかで、多くの人々により培われた地場産業として製炭業が根付いていた。しかし、燃料として使われていた炭は、ガスや石油の普及で次第に使われなくなり、昭和50年代に入ると製炭士が減少に転じた。高齢化と後継者不足、さらには過疎化により地域として深刻な問題を抱えていた。伝統産業を後世に伝承しつつ地域をあげて住みよい郷土づくりを目指すため、地域住民全員が参加できることを基本に「地域振興活動を行う団体」の設立に向けた話し合いや検討会を持ち、地域住民及び各種団体の合意のもと秋津川振興会を設立し、むらづくりの活動を進めてきた。

（２）むらづくりの内容

- ・紀州備長炭発祥の地として、秋津川振興会が管理運営を行う「紀州備長炭記念公園」を拠点とし、伝統と文化を守る住民総参加のむらづくり活動を実践。
- ・備長炭の商品として女性のアイデアを活かし、燃料としてだけではなく消臭剤や風鈴、食品添加物として等、創意工夫を活かした商品作りに取り組む。
- ・伝統の製炭技術を伝承するため、Iターン者や研修生を受け入れるなど、後継者の育成に取り組む。
- ・学校教育と連携し、パイロット園での農業体験や梅ジュース、梅ジャムの加工体験等を実践し、地域農業への理解を深めてもらう活動を行い食育に取り組む。
- ・梅栽培における規模拡大・所得向上を図るための高品質生産への取り組みや、安定生産を図るため南高梅を主体に新品種の導入も取り組む。
- ・国内外の観光客や修学旅行生の体験も受け入れ、都市住民との交流を図る。